

21

穂が出て暑い日が続いた時の品質低下軽減対策

要約

お米が割れて品質が低下する現象には、穂が出てからの最高気温が、猛暑で30℃以上になっていたことが大きく影響していました。これを防止するためには、成熟期になったら早めに刈取るのが有効です。

研究成果の概要

1. 背景・目的

お米が割れて品質が低下する現象（写真）が、平成19年に中南地域で多く発生しました。この原因解明と、防止対策について取り組みました。



注) 矢印部分にヒビが発生している

写真 割れたお米（胴割米）

2. 内容

- 胴割米の発生要因とその防止対策（図）を生産指導用の資料に取りまとめ、研修会を実施して、指導機関に周知しました。
- その後の高温年では、この情報が生産に活かされ、胴割米の被害が減っています。

3. 活用等

- この成果を活用することにより、高温年でも、品質の良いおいしいお米を生産することができます。
- 穂の出る時期から暑さが続く場合は、指導機関等からの情報にしたがって、右図も参考に防止策を講じてください。

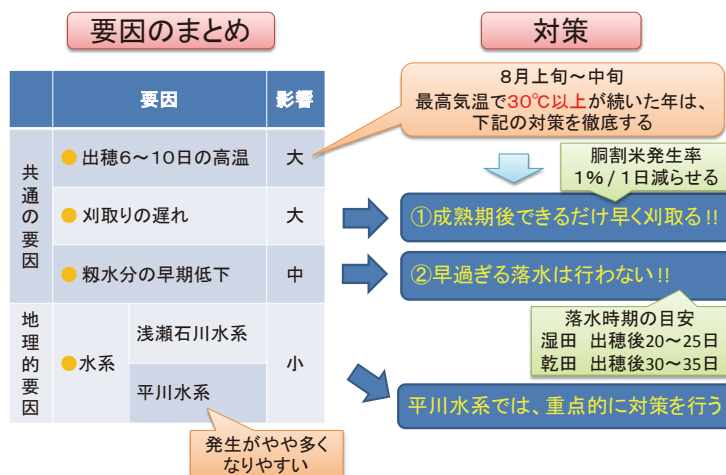


図 津軽中央地帯での胴割米発生要因の解析結果と軽減対策

関連情報

- この成果は、「つがるロマン」のデータをもとに作成しています。
- 胴割米による落等で、平成19年は中南地域だけで5,000万円の被害がありました。

農林総合研究所 作物部
Tel. 0172-52-4396
E-mail nou_souken@aomori-itc.or.jp

Aomori Prefectural Industrial Technology Research Center
地方独立行政法人 青森県産業技術センター

